

# 日本語の発話行為命名動詞分類のための基礎研究

久 保 進

## 1. はじめに

自然言語の発話行為理解においては、発話行為の文法や意味論と並んで発話行為の辞書が必要となる。本稿の目的は、発語内論理の枠組みにおいて、発話行為辞書の標準化のための基礎を提供することにある。

発語内論理では、個々の発話の意味は、命題の意味と発語内効力の意味の関数として、また、個別の発話の発語内効力の意味は、その構成要素である発語内目的、達成の様式、命題内容条件、予備条件、誠実条件、強さの度合といった6つの構成要素の再帰関数的組み合わせによる構成ととらえている。従って、この枠組みでは、個々の発語内行為を命名する発語内行為命名動詞は、それら6つの構成要素によって定義されることになる<sup>1)</sup>。しかし、それらの構成要素は達成の様式一つ取ってみても、その名前で括られている関係は多様で、辞書記述の観点からするとさらなる下位分類が可能であると思われる。ところで、発話行為は人間の認知システムの一つであるにとらえられる以上、発話行為辞書の中核部分は有限の再帰的言語によって定義されていなければならない。本稿では、従来の語彙の意味論で提案されているメタ言語を用い<sup>2)</sup>、下位構成要素の分類と形式化を行い、辞書記述の可能な標準化をめざす<sup>3)</sup>。ただし、紙面の都合上、達成の様式に焦点を当てその作業を行うこととする。

1) Vanderveken (1990, 1991, 1994) を参照されたい。

2) メタ言語については Kittredge and Lehrberger (1982), Kubo(1986) を参照されたい。

3) モンタギュー文法の標準文法である PTQ 文法では、自動詞 walk と自動詞 run はともに <<s, e>, t> の意味タイプに属する表現でそれ以上の辞書的意味の識別が求められなかつ

本稿では、以下の発話行為命名動詞がその分析の対象となる：

- a. 言明の発語内目的の発話行為命名動詞(22語)：表明する，告げる，<sup>ほの</sup>仄めかす，仮説を立てる，預言する，通知する，当てこする，支持を表明する，言い張る，請け合う，断言する，認証する，証明する，<sup>せんごん</sup>誓言する，証言する，賛同する，承認する，訴える，<sup>けんせき</sup>中傷する，譴責する，叱責する，説諭する。
- b. 行為拘束の発話行為命名動詞(7語)：脅迫する，誓う，誓願する，確約する，応諾する，黙諾する，捧げる。
- c. 行為指示の発話行為命名動詞(21語)：頼む，尋問する，急き立てる，励ます，思い止まらせる，依頼する，懇願する，請願する，招待する，乞う，泣き付く，嘆願する，哀願する，請う，懇望する，祈願する，せがむ，言う，指図する，命令する，指令する，押しつける，(神かけて) 厳命する。
- d. 宣言の発話行為命名動詞(17語)：退位する，放棄する，確証する，裁可する，批准する，祝福する，呪う，招集をかける，賛意(賛否)を表明する，公布する，勅令を出す，授ける，裁決する，無罪を宣告する，容疑を晴らす，遺贈する，洗礼を施す。
- e. 感情表現の発話行為命名動詞(6語)：賛美する，称賛する，喝采する，大喝采する，咎める，声援する。

## 2. 達成の様式の言語化

以下2.1~2.5は、久保, *et al.* (1997) の第6章を基に日本語の発語内行為命名動詞を発語内目的別に日常言語で定義したものである。それらの記述には、それぞれの命名動詞の達成の様式の言語化例を観察することができる。

---

た。それと同様、Vanderveken (1990) の発語内論理ではこれらの5つの構成要素は基本単位でありそれ以上の辞書的意味の識別は求めている。しかし、本稿では、Dowty (1979) が語の意味の定義をモンタギュー文法の枠組みの中で行ったと同様に、発語内論理をさらに発展させる意味でこれらの構成要素のそれぞれの主要な構成単位を抽出し形式化する。関連して、Kubo (1981) を参照されたい。

## 2.1. 言明の発語内目的

- (1) **表明する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**表明**は、**言明**の一種で、公に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (2) **告げる**という動詞が命名する発話行為、すなわち**告げ**は、**言明**の一種で、かなり横柄な態度で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (3) **仄めかす**という動詞が命名する発話行為、すなわち**仄めかし**は、**言明**の一種で、弱い強さの度合いで遂行される行為であるという達成の様式を持つ<sup>4)</sup>。
- (4) **仮説をたてる**という動詞が命名する発話行為、すなわち**仮説**は、弱い**言明**の一種で、多少とも形式的に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (5) **預言する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**預言**は、**予測**の一種で、権威的な達成の様式を持つ。
- (6) **通知する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**通知**は、**言明**の一種で、命題に関して聞き手が通知を受ける立場にあるという主旨の付加的な達成の様式を持つ。
- (7) **当てこする**という動詞が命名する発話行為、すなわち**当てこすり**は、**言明**の一種で、ゆっくりとした、そしてあるいは非形式的な手段で暗黙の達成の様式に訴える。
- (8) **言い張る**という複合動詞句が命名する発話行為、すなわち**言い張り**は、**支持表明**の一種で、執拗さという達成の様式を支持表明に付け加える。
- (9) **支持を表明する**という複合動詞句が命名する発話行為、すなわち**支持表明**は、**言明**の一種で、強い強さの度合いでその命題を公に遂行するという達成の様式を持つ。
- (10) **請け合う**という複合動詞句が命名する発話行為、すなわち**請け合い**は、**支持表明**の一種で、命題の真理を（聞き手が確信を持つところまで）納得させ

4) 日本語では、「君、間違ってるんじゃない」のように**仄めかす**という動詞が文中に現われないような非明示的な達成の様式しか存在しない。しかし、**仄めかし**という発話行為は**言っておく**という別の複合動詞によっては「君はまちがっている、**言っておく**」のように、明示的に表現される。

ようという発語媒介的意図で遂行される。

- (11) **断言する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**断言**は、断定の強さを強めての**請け合い**である。その付加された強さは、人が個人的に確信しているというかたちでの達成の様式や個人的権威に基づく**請け合い**というかたちでの達成の様式から派生する。
- (12) **認証する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**認証**は、ある命題が真であるということにたいする**請け合い**であり、その命題の真理に関して聞き手に自信を持たせようという発語媒介的意図で遂行される行為であるという達成の様式を持ち、格式ばった仕方で遂行される。
- (13) (命題を)**証明する**という発話行為、すなわち**証明**は、**言明**の一種で、真剣な達成の様式を持つ。
- (14) **誓言する**という発話行為、すなわち**誓言**は、**証明**の一種で、厳肅性を強めることによって証明するから派生されるという達成の様式を持つ。
- (15) **証言する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**証言**は、**証明**の一種で、話し手は(法廷の)証人であるという達成の様式を持つ。
- (16) **賛同する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**賛同**は、**同意**の一種で、人の説得に、聞き手がしぶしぶ従うという付加的な達成の様式を持つ。
- (17) **承認する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**承認**は、**容認**の一種で、公にという達成の様式を持つ。
- (18) **訴える**という動詞が命名する発話行為、すなわち**訴え**は、それが必然的に公のものであるという点において責めと異なる。その強さの度合いはこのような公の達成の様式によって増加する。
- (19) **中傷する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**中傷**は、誤解させるとか偽って訴えるというような発語媒介的意図で遂行される行為であるという達成の様式を持ち、それで、偽って**訴える**ことである。
- (20) **譴責する**、**叱責する**、**説諭する**などの動詞が命名する発話行為、すなわち**譴責**、**叱責**、**説諭**は、**訴え**の一種で、誤った行動に対する罰として、個人的

な不快感を付加するという特別な達成の様式を持つ。

## 2.2. 行為拘束の発語内目的

- (1) **脅迫する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**脅迫**は、聞き手に恐怖を与えてやろうという発語媒介的意図で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (2) **誓う**という動詞が命名する発話行為は**誓い**、**莊嚴**に遂行される行為であるという達成の様式を持ち、そのやり方で**誓約**することである。
- (3) **誓願する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**誓願**は、**誓い**の一種で、神聖なあるいは崇拝されている人物や物体あるいは制度にたいして**莊嚴**かつ**公**に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。誓いよりは、より高められた強さの度合いと、より制限された達成の様式が存在する。
- (4) **確約する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**確約**は、**約束**の一種で、疑いを持っている人を確信させるという発語媒介的意図で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (5) **応諾する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**応諾**は、**返答**の一種で、望まれた一連の行動に自己拘束するに際して、申し出とか、招待とか、要請などに対して前向きに遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (6) **黙諾する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**黙諾**は、**承諾**の一種で、極めて不本意ながら遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (7) **捧げる**という動詞が命名する発話行為、すなわち**捧げ**は、かくかくしかじかの仕事や生活様式に自己拘束することである。一般的には、倫理的なあるいは神聖な心情ないしは動機づけで自己拘束するというような達成の様式が存在する。

## 2.3. 行為指示の発語内目的

- (1) **頼む**、あるいは、**願う**という動詞が命名する発話行為、すなわち**頼み**、あ

るいは、願いは、話し手が聞き手に対して拒否の選択権を与えているという丁寧な達成の様式を持つ。

- (2) 尋問するという動詞が命名する発話行為、すなわち尋問は、質問の一種で、なんらかの目標にとって重要な何かが隠されているという嫌疑を抱いて、正式に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (3) 急き立てるという動詞が命名する発話行為、すなわち急き立ては、指図の一種で、いくぶんかの強さを持つ達成の様式でその行動を主張するような行為指示の発語内動詞として用いられることである。
- (4) 励ますという動詞が命名する発話行為、すなわち励ましは、要請の一種で、聞き手に勇気を吹き込むという発語媒介的意図で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (5) 思い止まらせるという動詞が命名する発話行為、すなわち思い止まらしは、要請の一種で、それをするのに必要とされる勇気を聞き手から剝奪するという発語媒介的意図で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (6) 依頼するという動詞が命名する発話行為、すなわち依頼は、要請の一種で、一定の格式・手順を満たすように遂行されるという特別の達成の様式を持つ。
- (7) 懇願するという動詞が命名する発話行為、すなわち懇願は、要請の一種で、真面目に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (8) 請願するという動詞が命名する発話行為、すなわち請願は、依頼の一種で、文書にされた要請とか、正式の祈願とか、正式の請願などを提出することによって遂行される行為であるという達成の様式とを持つ。
- (9) 招待するという動詞が命名する発話行為、すなわち招待は、聞き手の側に拒否の選択権があるという達成の様式を持つ。
- (10) 乞うという発話行為、乞いは、要請の一種で、へりくだって遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (11) 泣き付くという動詞が命名する発話行為、すなわち泣き付きは、願いの一種で、何かを非常にへりくだって遂行する行為であるという達成の様式を持つ。

つ。

- (12) **嘆願する**、という発話行為は、すなわち**嘆願**は、**願いの一種**で、ある要請が受け入れられるように、真面目に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (13) **哀願する**、それに**請う**という発話行為は、すなわち**哀願**、そして**請い**は、**願いの一種**で、ある要請が受け入れられるように、真面目に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (14) **懇望する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**懇望**は、**願いの一種**で、非常に真面目にそして厳粛に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (15) **祈願する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**祈願**は、大いに敬意を払って遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (16) **せがむ**という動詞が命名する発話行為、すなわち**せがみ**は、**指示の一種**で、しつこく遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (17) (誰かに何かをするように)**言う**という発話行為は、**指示の一種**で、有無を言わせない態度で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (18) **指図する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**指図**は、**言うの一種**で、有無を言わせない態度で遂行されるという達成の様式を持つ。
- (19) **命令する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**命令**は、**求めの一種**で、聞き手をしのぐような権威に訴えながら遂行される行為で、話し手は聞き手に対して拒否の選択権を与えず有無を言わせない態度で遂行される行為であるという特別の達成の様式を持つ。
- (20) **指令する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**指令**は、**命令の一種**で、権威のある地位から遂行される行為で、話し手は聞き手に対して拒否の選択権を与えず有無を言わせない態度で遂行される行為であるという特別の達成の様式を持つ。
- (21) **押しつける**という動詞が命名する発話行為、すなわち**押しつけ**は、**もっと**

も強い強さの度合いで**指令**することであり、神や、自分の良心、あるいは独裁者のように、もっとも強い**権威**のある地位から遂行される行為であるという**特別の達成の様式**を持つ。

- (22) (神かけて)**厳命する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**厳命**は、**指令**の一種で、宣誓や呪いなどの儀式に則して遂行される行為であるという**達成の様式**を持つ。

#### 2.4. 宣言の発話内目的

- (1) **退位する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**退位**は、**辞任**の一種で、話し手が投げ出す**権力**は、社会的に非常に重要であるという事実により要求されるようなもので、公の**厳粛な達成の様式**を持つ。
- (2) **放棄する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**放棄**は、**投げ出し**の一種で、誓いを立てることによって遂行される行為であるという**達成の様式**を持つ。
- (3) **確証する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**確証**は、**賛成**の一種で、弱い**権威**に訴えるという**達成の様式**を持つ。
- (4) **裁可する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**裁可**は、**確証**の一種で、以前になされた宣言を法的にあるいは正式に遂行される行為であるという**達成の様式**を持つ。
- (5) **批准する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**批准**は、**確証**の一種で、(条約とか、協定とか、規約のような)以前になされた重要な宣言を(要求される形式で)正式にあるいは法的に遂行される行為であるという**達成の様式**を持つ。
- (6) **祝福する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**祝福**は、**宣言**の一種で、**聖職者**や**家長**といった**特別の権限**を持つ人によって遂行される行為であるという**達成の様式**を持つ。
- (7) **呪う**という動詞が命名する発話行為、すなわち**呪い**は、**宣言**の一種で、**呪**



術者や魔術師のような特別の権威ある地位の人によって遂行される行為であるという達成の様式を持つ。

- (8) **招集をかける**という動詞が命名する発話行為、すなわち**招集**は、**召集**の一種で、より正式の権威をもって遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (9) **賛意（賛否）を表明する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**賛意表明**は、**宣言**の一種で、正式で、規則に則した仕方で遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (10) **公布する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**公布**は、**宣言**の一種で、しかも、公に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (11) **勅令をだす**という動詞が命名する発話行為、すなわち**勅令発布**は、**発布**の一種で、公に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (12) **授ける**という動詞が命名する発話行為、すなわち**授け**は、**授与**の一種で、非常に価値のあるものを非常に地位の高い人から授与することであるという達成の様式を持つ。
- (13) **裁決する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**採決**は、**宣言**の一種で、明白な権威に基づいて行為が遂行されるという達成の様式を持つ。
- (14) **無罪を宣告する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**無罪宣告**は、**宣言**の一種で、告訴が打ち切られたりあるいは取り下げられたりしたために、嫌疑が晴れたということを、裁判官が形式的な達成の様式で宣言することである。
- (15) **容疑を晴らす**という動詞が命名する発話行為は、**無罪宣告**の一種で、裁判官が形式的な達成の様式で宣言することである。
- (16) **遺贈する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**遺贈**は、**宣言**の一種で、遺言によって遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (17) **洗礼を施す**あるいは、**洗礼名を付ける**という動詞が命名する発話行為、すなわち**洗礼**は、**宣言**の一種で、命名行為を伴う儀式的行為によって遂行され

る行為であるという達成の様式を持つ。

### 2.5. 感情表現の発語内目的

- (1) **賛美する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**賛美**は、**誉めそやし**の一種で、深い謙遜と崇拜の気持で遂行するという達成の様式を持つ。最も強い強さの度合いを持つ言葉での誉めそやしである。
- (2) **称賛する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**賞賛**は、**誉め称え**の一種で、公に遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (3) **喝采する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**喝采**は、**称賛**の一種で、公演という文脈において、しばしば手を叩くことによって遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (4) **大喝采する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**大喝采**は、**喝采**の一種で、大いなる強さの度合いで、しばしば、[拍手に加えて]満足の気持を声に出して遂行される行為であるというさらなる達成の様式を持つ。
- (5) **咎める**という動詞が命名する発話行為、すなわち**咎め**は、強い不満の**表明**の一種で、行われた行為は悪いことであると明確に誰かの、おそらく聞き手のせいにして遂行される行為であるという達成の様式を持つ。
- (6) **声援する**という動詞が命名する発話行為、すなわち**声援**は**気持ちの表明**の一種で、個人あるいは集団／チームに向けて遂行される行為であるという達成の様式を持つ。

## 3. 達成の様式のメタ言語

2での観察から、大枠で以下のような11のメタ言語の抽出が可能である。尚、それぞれのメタ言語の言語化例を{ }中に例示しておく：

- a. <社会化の度合い>：{公に、私的に、…}，
- b. <形式度>：{格式ばって、形式的に、非形式的に、くだけて、…}，
- c. <話し手の立場>：{非常に地位の高い人{国王、…}，権威／権限のある地

- 位の人 {聖職者, 裁判官, 家長, …}, 証人, …},
- d. <聞き手の立場>: {命題に関して聞き手が通知を受ける立場にある/ない, 聞き手の側に拒否の選択権がある/ない, 非難される立場にある, …},
- e. <話し手の態度>: {権威的な, 有無を言わさぬ, 横柄な態度で, 遜った, 敬意を払って, 崇拜の気持で; 執拗な, 真剣な, 真面目に, 前向きの, 普通の, 不本意ながら, 嫌疑を抱いて, …},
- f. <聞き手の態度>: {しぶしぶ, …},
- g. <聞き手の行動>: {従う, …},
- h. <話し手の発語媒介的意図>: {命題の真理を (聞き手が確信を持つところまで) 納得させよう, 命題の真理に関して聞き手に自信を持たせよう, 聞き手に勇気を吹き込むという発語媒介的意図, 聞き手から勇気を剝奪するという発語媒介的意図, 誤解させよう/偽って訴えよう, 聞き手に恐怖を与えよう, 罰として個人的な不快感を伝えよう, …},
- i. <発話の対象>: {神聖なあるいは崇拜されている人物や物体あるいは制度, …},
- j. <やり方>: {荘厳に, 厳粛に, 格式に合わせて, 権威に訴えて, 権威に基づいて, 儀式に則して, 手順を踏んで, 聞き手の権利を宣言しながら, 法的に, 遺言で, 文書で, 正式に, 制限の基で, 拍手して, 声に出して, 暗黙に; しつこく, …},
- k. <強さの度合い>: 程度の形容詞 {強い, 少し, いくぶん, 弱い; 明白な, …}; 程度の副詞 {最も, 非常に, かなり, 大いに, 多少とも, ゆっくりとした, 極めて, …},

---

5) ここでの提案は構成的形式化であるが, 認知発話行為理論の観点からの形式化も可能である。認知発話行為理論は, 従来の発語内論理で理論的原子(primitives)あるいは基本単位として捉えられているものをゲシュタルト的単位として捉え直すものである。従って, そこでは単なる構成主義とは違い「全体は部分の関数以上のものである」という観点を採用し,

#### 4. 達成の様式の形式化<sup>5)</sup>

3で得られたメタ言語は、現行枠組みですべて形式化できるわけではない。ここでは、相対的に形式化が可能なメタ言語に絞って議論をすすめる。尚、その際、メタ言語の集合と達成の様式の関係は次のように規定しておく：

個々の発語内行為の達成の様式の値は、それらのメタ言語の値のブール積・ブール個々の発語内行為の達成の様式の値は、それらのメタ言語の値のブール積・ブール和により得られる。また、それらのメタ言語は尺度に基づく相対的値の連鎖であり、個々の値は基準値(0)に対してアーベル関数的加法により再帰的に得られる。

##### 4.1. 公度(おおやけど)

社会化の意味は、{公に、私的に}と2項対立的に言語化される。しかし、実際には、「極めて」、「かなり」、「少し」、などのような程度表現をとってどの程度私的であるか、それとも公的であるのかが尺度(scale)で表される。換言すれば、社会化の意味は尺度の問題であり極(polarity)の問題はない。本稿では、そのような尺度を公度( $\rho$ で表す)として形式化する<sup>6)</sup>

また、私的と公的の間には、(1)~(3)にみられるような関係がある。

- (1) a. かなり私的であっても完全に私的ではない。
- b. 少し私的であってもかなり私的ではない。
- c. 少し公的であってもかなり公的ではない。
- d. かなり公的であっても完全に公的ではない。

---

構造と機能の両方を解釈する。その意味では、認知発話行為理論は従来の発話行為理論と認知言語学のハイブリッドということになる。Cf. Kubo(in preparation).

6) ファジー(fuzzy)で形式化することも可能であるが発語内論理はファジーを現行では採用していないので尺度で表す。むしろすべての論理系はファジー化(fuzzify)することは可能であるから、ファジー発語内論理が生まれることもあり得る(Cf. Zadeh, 1993)。

- (2) a. 完全に私的でなければ、わずかでも公的である。  
 b. 完全に公的でなければ、わずかでも私的である。  
 c. 私的でなければ公的である。  
 d. 公的でなければ私的である。

- (3) a. かなり私的であっても、少しは公的であり得る。  
 b. かなり公的であっても、少しは私的であり得る。  
 従って、(1)~(3)から、(4)のような公度の尺度が得られる：

(4) 公度 私 0 ←… 1 …… 2 …… 3 …→ 4 公

- (5) a.  $\rho[0]$  = 極めて私的  
 b.  $\rho[1]$  = かなり私的・少し公的に  
 c.  $\rho[2]$  = 私的とも公的とも言えない  
 d.  $\rho[3]$  = 少し私的・かなり公的に  
 e.  $\rho[4]$  = 極めて公的 = 儀式的

(5)は(6)に示す再帰的定義により得られる：

- (6) a.  $\rho[0]$   
 b.  $\rho[n+1]$ , where  $n \leq 3$ .

さらに、公度は場面や対人関係との関係でも言語化されている。場面、対人関係をそれぞれ  $st$  (=situation),  $hr/$  (=human relation) で表わし、それらを関数化すると(7), (8)の様に形式化できる：

- (7) a. 私的場面： $st(\rho[0])$

- b. 公的場面： $st(\rho[n > 1])$   
 c. 儀式的場面： $st(\rho[4])$
- (8) a.  $hrl(\rho[0])$  = 極めて私的な関係 (夫婦, 恋人, 親子, 兄弟)  
 b.  $hrl(\rho[1])$  = かなり私的関係 (親しい友人, 隣人, 同僚, 部下)  
 c.  $hrl(\rho[2])$  = 私的とも公的とも言えない関係 (友人, 同僚)  
 d.  $hrl(\rho[3])$  = かなり公的関係 (知り合い, 上司)  
 e.  $hrl(\rho[4])$  = 極めて公的関係 (初対面の人, 取引先の上役)

#### 4.2. 話し手と聞き手の立場

話し方の形式度は通例, 対人関係を表す待遇表現に具現され, {<目上> (Superior:  $\uparrow$ ), <目下> (Inferior:  $\downarrow$ ), <同等> (Equal:  $\updownarrow$ )}の3通りがある。これらは話し手と聞き手の間に働く関係であるから, 話し手と聞き手を項としてとり, 次のような論理関係で表すことができる。

- (9) a.  $\mu_{41} = \uparrow = \langle \text{Sp, Hr, } \langle \rangle$ .  
 b.  $\mu_{42} = \downarrow = \langle \text{Sp, Hr, } \rangle \rangle$ .  
 c.  $\mu_{43} = \updownarrow = \langle \text{Sp, Hr, } = \rangle$

また, それらの間には(10)のような関係が成り立つ:

- (10) a.  $\uparrow p = \neg \downarrow p, \downarrow p = \neg \uparrow p$   
 b.  $\uparrow p = \downarrow p \equiv \updownarrow p$

### 4.3. 話し手と聞き手の態度

#### 4.3.1. 度合いの形式化

度合いは一般に(11)のように形式化が可能である。そして、様々な度合いは(11)を基に形式化される。

- (11)  $dgr[-3] =$  極めて…  
 $dgr[-2] =$  …  
 $dgr[-1] =$  やや…  
 $dgr[0] =$  普通  
 $dgr[1] =$  やや…  
 $dgr[2] =$  …  
 $dgr[3] =$  極めて…

その場合、(11)は(12)に示す再帰的定義により得られる：

- (12) a.  $dgr[0]$   
 b.  $dgr[0-n]$ , where  $n \leq 3$ .  
 c.  $dgr[n+1]$ , where  $n \leq 3$ .

#### 4.3.2. 態度

話し手の態度には疎遠さ、横柄さ、積極さ、敬意を払う態度などがあり、それぞれ度合いで表される。

##### a. 疎遠度 (Degree of remote)

疎遠度は下図のような尺度で表される：

極めて親しい← →極めてよそよそしい  
 親しい やや親しい 普通 ややよそよそしい よそよそしい

疎遠度を  $rmt(= remote)$  で表すと、(13)のように形式化が可能である：

- (13)  $rmt(dgr[-3]) =$  極めて親しい・親密な  
 $rmt(dgr[-2]) =$  親しい  
 $rmt(dgr[-1]) =$  やや親しい  
 $rmt(dgr[0]) =$  普通  
 $rmt(dgr[1]) =$  ややよそよそしい  
 $rmt(dgr[2]) =$  よそよそしい  
 $rmt(dgr[3]) =$  極めてよそよそしい・疎遠な

その場合、(13)は(14)に示す再帰的定義により得られる：

- (14) a.  $rmt(dgr[0])$   
 b.  $rmt(dgr[0-n])$ , where  $n \leq 3$ .  
 c.  $rmt(dgr[n+1])$ , where  $n \leq 3$ .

b. 横柄度 (Degree of arrogance)

横柄度は下図のような尺度で表される：

極めて控えめ← →極めて横柄な  
 控えめ やや控えめ 普通 やや横柄な 横柄な

横柄度を  $arrog(= arrogance)$  で表すと、(15)のように形式化が可能である：

- (15)  $arrog(dgr[-3]) =$  極めて控えめ  
 $arrog(dgr[-2]) =$  控えめ  
 $arrog(dgr[-1]) =$  やや控えめ







満足度は下図のような尺度で表される：

極めて不満 ← 不満 やや不満 普通 やや満足 満足 → 極めて満足

満足度を *sati*(= Satisfaction) で表すと、(21)のように形式化が可能である：

- (21)  $sati(dgr[-3]) = \text{極めて不満}$   
 $sati(dgr[-2]) = \text{不満}$   
 $sati(dgr[-1]) = \text{やや不満}$   
 $sati(dgr[0]) = \text{普通}$   
 $sati(dgr[1]) = \text{やや満足}$   
 $sati(dgr[2]) = \text{満足}$   
 $sati(dgr[3]) = \text{極めて満足}$

(21)は(22)に示す再帰的定義により得られる：

- (22) a.  $sati(dgr[0])$   
 b.  $sati(dgr[0-n])$ , where  $n \leq 3$ .  
 c.  $sati(dgr[n+1])$ , where  $n \leq 3$ .

b. 悪意度 (Degree of bad purpose)

悪意度は下図のような尺度で表される：

極めて好意的 ← 好意的 やや好意的 普通 やや悪意のある 悪意のある → 悪意に満ちた

悪意度を *badp*(= bad purpose) で表すと、(23)のように形式化が可能である：

- (23)  $badp(dgr[-3]) = \text{極めて好意的}$   
 $badp(dgr[-2]) = \text{好意的}$





極めてくれた← →極めて堅苦しい  
 くれた ややくれた 普通 やや堅苦しい 堅苦しい

ムードの度合いを *mood* で表すと、(29)のように形式化が可能である：

- (29)  $mood(dgr[-3]) = \text{極めてくれた}$   
 $mood(dgr[-2]) = \text{くれた}$   
 $mood(dgr[-1]) = \text{ややくれた}$   
 $mood(dgr[0]) = \text{普通}$   
 $mood(dgr[1]) = \text{やや堅苦しい}$   
 $mood(dgr[2]) = \text{堅苦しい}$   
 $mood(dgr[3]) = \text{堅苦しい・荘厳な}$

(29)は(30)に示す再帰的定義により得られる：

- (30) a.  $mood(dgr[0])$   
 b.  $mood(dgr[0-n])$ , where  $n \leq 3$ .  
 c.  $mood(dgr[n+1])$ , where  $n \leq 3$ .

#### 4.6. 行為・行動のとられ方・振る舞い方

発話行動のとられ方には様々なものがあるがここでは、速さと強さに絞ってまとめておく。

##### a. 速度 (speed)

速度は下図のような尺度で表される：

極めてゆっくり← →極めて速く  
 ゆっくり ややゆっくり 普通 やや速く 速く

速度を *spd*(= speed) で表すと、(31)のように形式化が可能である：







## 4.7. その他の論理述語

## A. 話し手の発語媒介的意図

手段, 話し手, 聞き手, 発語媒介行為をそれぞれ *means*, *sp*(= speaker), *hr*(= hearer), *perloc*(= perlocutionary act) で表すと, (37)~(40)に例示するように形式化が可能である:

(37) *means* (書面).

*means* (神).

*means* (法).

*means* (遺言).

*means* (拍手).

*means* (声).

(38) *sp* (聖職者).

*sp* (魔術師).

*sp* (特別の権威ある地位の人).

*sp* (天皇).

*sp* (議長).

*sp* (裁判官).

*sp* (牧師).

(39) *hr* (神).

*hr* (受け手).

(40) *perloc* (事柄が広く知れ渡るようになる).

*perloc* (命題の真理を (聞き手が確信を持つところまで) 納得させよう).

*perloc* (命題の真理に関して聞き手に自信を持たせよう).

*perloc* (誤解させよう; 偽って訴えよう).

*perloc* (聞き手を怖がらせよう).

## 5. メタ言語による発語内行為命名動詞の形式化例

ここでは、4で試みたメタ言語の形式化に基づき、幾つかの発語内行為命名動詞の発語内目的別相互意味網と達成の様式の意味情報を提供する。前者は、包含関係( $\subset$ )で表され、後者は達成の様式の下位構成素であるメタ言語のブール積( $\cap$ )・ブール和( $\cup$ )で表される。尚、達成の様式は以下 $\mu$ で表す。

### 5.1. 言明の発語内目的

- (1) 表明する: 表明 $\subset$ 言明,  $\mu(\text{表明}) = \text{form}(dgr[n>2]) \cap \text{st}(p[n>3])$ .
- (2) 告げる: 告げ $\subset$ 言明,  $\mu(\text{告げ}) = \downarrow \cap \text{arrog}(dgr[3]) \cap \text{form}(dgr[3]) \cap \text{st}(p[n>3]) \cap \text{str}(dgr[n>2]) \cup \text{sp}(\text{聖職者})$ .
- (3) 仄めかす: 仄めかし $\subset$ 言明,  $\mu(\text{仄めかし}) = \text{arrog}(dgr[n<0]) \cap \text{form}(dgr[n<1]) \cap \text{st}(p[0<n<2]) \cap \text{str}(dgr[-2])$ .
- (4) 仮説をたてる: 仮説 $\subset$ 言明,  $\mu(\text{仮説}) = \text{form}(dgr[n>2]) \cap \text{str}(dgr[-2])$ .
- (5) 預言する: 預言 $\subset$ 予測,  $\mu(\text{預言}) = \downarrow \cap \text{arrog}(dgr[n>1]) \cap \text{form}(dgr[n>2]) \cap \text{st}(p[4]) \cap \text{str}(dgr[n>2])$ .
- (6) 通知する: 通知 $\subset$ 言明,  $\mu(\text{通知}) = \downarrow \cap \text{form}(dgr[2]) \cap \text{st}(p[n>1]) \cap \text{hr}$   
(受け手).
- (7) 当てこする: 当てこすり $\subset$ 言明,  $\mu(\text{当てこすり}) = \text{arrog}(dgr[n>2]) \cap \text{form}(dgr[n<0]) \cap \text{st}(p[0<n<2]) \cap \text{spd}(dgr[-2]) \cup \text{bad}(\text{posit}(dgr[2]))$ .
- (8) 支持を表明する: 支持表明 $\subset$ 言明,  $\mu(\text{支持表明}) = \text{form}(dgr[n>2]) \cap \text{st}(p[n>3]) \cap \text{str}(dgr[2])$ .
- (9) 言い張る: 言い張り $\subset$ 支持表明,  $\mu(\text{言い張り}) = \text{arrog}(dgr[n>1]) \cap \text{form}(dgr[n<1]) \cap \text{st}(p[0<n<2]) \cap \text{str}(dgr[n>2]) \cap \text{bad}(\text{posit}(dgr[2]))$ .
- (10) 請け合う: 請け合い $\subset$ 支持表明,  $\mu(\text{請け合い}) = \downarrow \cap \text{form}(dgr[3]) \cap$

$st(p[n>3]) \cap sati([dgr[n>1]) \cap perloc$  (命題の真理を(聞き手が確信を持つところまで)納得させよう).

- (11) 断言する：断言  $\subset$  請け合い,  $\mu(\text{断言}) = \downarrow \cap arrog(dgr[n>1]) \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[n>3]) \cap str(dgr[2])$ .
- (12) 認証する：認証  $\subset$  請け合い,  $\mu(\text{認証}) = \downarrow \cap arrog(dgr[n>1]) \cap form(dgr[2]) \cap st(p[n>2]) \cap perloc$  (命題の真理に関して聞き手に自信を持たせよう)  $\cap \rho[4]$ .
- (13) 証明する：証明  $\subset$  言明,  $\mu(\text{証明}) = \downarrow \cap arrog(dgr[1]) \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[n>2]) \cap sati(dgr[n>1]) \cap good(posit(dgr[2]))$ .
- (14) 誓言する：誓言  $\subset$  証明,  $\mu(\text{誓言}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-3]) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[3]) \cap mood(dgr[3])$ .
- (15) 証言する：証言  $\subset$  証明,  $\mu(\text{証言}) = form(dgr[n>2]) \cap st(p[n>1]) \cap sp(\text{証人}) \cap means(\text{法})$ .
- (16) 賛同する：賛同  $\subset$  同意,  $\mu(\text{賛同}) = form(dgr[n>2]) \cap st(p[n>1]) \cap sati(dgr[n>1]) \cap posit(dgr[-2])$ .
- (17) 承認する：承認  $\subset$  容認,  $\mu(\text{承認}) = \downarrow \cap arrog(dgr[1]) \cap from(dgr[3]) \cap st(p[n>3]) \cap sati(dgr[n>1])$ .
- (18) 訴える：訴え,  $\mu(\text{訴え}) = \uparrow \cap form(dgr[3]) \cap st(p[n>2]) \cap mood([dgr[n>2]) \cap sati(dgr[n<-2])$ .
- (19) 中傷する：中傷  $\subset$  訴え,  $\mu(\text{中傷}) = \downarrow \cap arrog(dgr[n>2]) \cap st(p[n>0]) \cap sati(dgr[-3]) \cap badp(dgr[n>2]) \cap perloc$  (誤解させるとか偽って訴える).
- (20) 譴責する, 叱責する, 説諭する：{譴責, 叱責, 説諭}  $\subset$  訴え,  $\mu(\text{譴責}) \cdot \mu(\text{叱責}) \cdot \mu(\text{説諭}) = \downarrow \cap arrog(dgr[n>2]) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[n>0]) \cap mood(dgr[3]) \cap sati(dgr[-3])$ .

## 5.2. 行為拘束の発語内目的

- (1) 脅迫する：脅迫  $= \mu(\text{脅迫}) = \downarrow \cap arrog(dgr[3]) \cap form(dgr[n<-1]) \cap$

$st(p[0]) \cap badp(dgr[3]) \cap perloc$  (聞き手に恐怖を与えてやろう).

- (2) 誓う：誓い  $\subset$  誓約,  $\mu(\text{誓い}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-3]) \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[2]) \cap mood(dgr[3])$ .
- (3) 誓願する：誓願  $\subset$  誓い,  $\mu(\text{誓願}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-3]) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[3]) \cap hr(\text{神}) \cap mood(dgr[3])$ .
- (4) 確約する：確約  $\subset$  約束,  $\mu(\text{確約}) = form(dgr[3]) \cap st(p[2]) \cap perloc$  (疑いを持っている人を確信させる).
- (5) 応諾する：応諾  $\subset$  返答,  $\mu(\text{応諾}) = arrog(dgr[n<0]) \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[2]) \cap posit(dgr[n>1])$ .
- (6) 黙諾する：黙諾  $\subset$  承諾,  $\mu(\text{黙諾}) = \uparrow \cap arrog(dgr[n<-1]) \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[2]) \cap posit(dgr[-3])$ .
- (7) 捧げる：捧げ  $\subset$  自己拘束,  $\mu(\text{捧げ}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-3]) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[2]) \cap good(posit(dgr[3])) \cap badp(dgr[-3])$ .

### 5.3. 行為指示の発語内目的

- (1) 頼む, 願う：{頼み, 願い},  $\mu(\text{頼み}) \cdot \mu(\text{願い}) = arrog(dgr[n<-1]) \cap form(dgr[n>1]) \cap st(p[n>0]) \cap rspt(dgr[1])$ .
- (2) 尋問する：尋問  $\subset$  質問,  $\mu(\text{尋問}) = \downarrow \cap arrog(dgr[n>2]) \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[n>1]) \cap bel(dgr[-3])$ .
- (3) 急き立てる：急き立て  $\subset$  指図,  $\mu(\text{急き立て}) = \downarrow \cap arrog(dgr[n>1]) \cap form(dgr[n>-3]) \cap st(p[n>0]) \cap str(p[n>1])$ .
- (4) 励ます：励まし  $\subset$  要請,  $\mu(\text{励まし}) = \downarrow \cap arrog(dgr[-1]) \cap form(dgr[n>-3]) \cap st(p[n>0]) \cup means(\text{書面}) \cap perloc$  (聞き手に勇気を吹き込む).
- (5) 思い止まらせる：思い止まらし  $\subset$  要請,  $\mu(\text{思いとどまらし}) = \downarrow \cap arrog(dgr[-1]) \cap form(dgr[n>1]) \cap st(p[n>0]) \cup means(\text{書面}) \cap perloc$  (勇気を聞き手から剝奪する).
- (6) 依頼する：依頼  $\subset$  要請,  $\mu(\text{依頼}) = \downarrow \cap arrog(dgr[-1]) \cap form(dgr[n>$

- 2])  $\cap st(p[n > 1]) \cup means$  (書面).
- (7) 懇願する：懇願  $\subset$  要請,  $\mu(\text{懇願}) = \uparrow \cap good(posit(dgr[2])) \cap st(p[n > 1])$ .
- (8) 請願する：請願  $\subset$  依頼,  $\mu(\text{請願}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-2]) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[n > 1]) \cap means$  (書面).
- (9) 招待する：招待,  $\mu(\text{招待}) = arrog(dgr[-1]) \cap form(dgr[2]) \cap st(p[n > 0])$ .
- (10) 乞う：乞い  $\subset$  要請,  $\mu(\text{乞い}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-2]) \cap form(dgr[n < 0]) \cap st(p[0])$ .
- (11) 泣き付く：泣き付き  $\subset$  願い,  $\mu(\text{泣き付き}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-3]) \cap form(dgr[n < 0]) \cap st(p[0])$ .
- (12) 嘆願する：嘆願  $\subset$  願い,  $\mu(\text{嘆願}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-2]) \cap good(posit(dgr[3])) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[n > 1]) \cup means$  (書面).
- (13) 哀願する, 請う：{哀願, 請い}  $\subset$  願い,  $\mu(\text{哀願}) \cdot \mu(\text{請い}) = \uparrow \cap arrog(dgr[-2]) \cap good(posit(dgr[3])) \cap form(dgr[n < 0]) \cap st(p[n > 1])$ .
- (14) 懇望する：懇望  $\subset$  願い,  $\mu(\text{懇望}) = \uparrow \cap good(posit(dgr[3])) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[n > 1])$ .
- (15) 祈願する：祈願,  $\mu(\text{祈願}) = \uparrow \cap rspt(dgr[3]) \cap good(posit(dgr[3])) \cap form(dgr[3]) \cap st(p[n > 1]) \cap hr$  (神).
- (16) せがむ：せがみ  $\subset$  指示,  $\mu(\text{せがみ}) = \uparrow \cap bad(posit(dgr[3])) \cap form(dgr[-3]) \cup indul(dgr[3]) \cap st(p[0])$ .
- (17) 言う：言うこと  $\subset$  指示,  $\mu(\text{言うこと}) = \downarrow \cap arrog(dgr[3]) \cap form(dgr[n < 1]) \cap st(p[n > 1])$ .
- (18) 指図する：指図  $\subset$  言うこと,  $\mu(\text{指図}) = \downarrow \cap arrog(dgr[3]) \cap form(dgr[1]) \cap st(p[n > 1])$ .
- (19) 命令する：命令  $\subset$  求め,  $\mu(\text{命令}) = \downarrow \cap arrog(dgr[3]) \cap form(dgr[n > 2]) \cap st(p[n > 1])$ .

- (20) 指令する：指令 $\subset$ 命令,  $\mu(\text{指令}) = \downarrow \cap \text{arrog}(\text{dgr}[3]) \cap \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[n>1])$ .
- (21) 押しつける：押しつけ $\subset$ 指令,  $\mu(\text{押しつけ}) = \downarrow \cap \text{arrog}([\text{dgr}[3]) \cap \text{form}(\text{dgr}[n>1]) \cap \text{st}(p[n>1])$ .
- (22) 厳命する：厳命 $\subset$ 指令,  $\mu(\text{厳命}) = \downarrow \cap \text{arrog}([\text{dgr}[3]) \cap \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[4])$ .

#### 5.4. 宣言の発語内目的

- (1) 退位する：退位 $\subset$ 辞任,  $\mu(\text{退位}) = \downarrow \cap \text{st}(p[4]) \cap \text{form}(\text{dgr}[4]) \cap \text{st}(p[4])$ .
- (2) 放棄する：放棄 $\subset$ 投げ出し,  $\mu(\text{放棄}) = \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[n>1])$ .
- (3) 確証する：確証 $\subset$ 賛成,  $\mu(\text{確証}) = \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[n>1])$ .
- (4) 裁可する：裁可 $\subset$ 確証,  $\mu(\text{裁可}) = \downarrow \cap \text{arrog}(\text{dgr}[3]) \cap \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[4]) \cap \text{means}(\text{法})$ .
- (5) 批准する：批准 $\subset$ 確証,  $\mu(\text{批准}) = \text{arrog}(\text{dgr}[3]) \cap \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[4]) \cap \text{means}(\text{法})$ .
- (6) 祝福する：祝福 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{祝福}) = \downarrow \cap \text{arrog}(\text{dgr}[0]) \cap \text{st}(p[n>0]) \cap \text{badp}(\text{dgr}[n<0]) \cup \text{sp}(\text{聖職者})$ .
- (7) 呪う：呪い $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{呪う}) = \downarrow \cap \text{arrog}(\text{dgr}[3]) \cap \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap \text{st}(p[4]) \cap \text{badp}(\text{dgr}[3]) \cup \text{sp}(\text{魔術師})$ .
- (9) 招集をかける：招集 $\subset$ 召集,  $\mu(\text{召集}) = \downarrow \cap \text{arrog}(\text{dgr}[1]) \cap \text{form}(\text{dgr}[2]) \cap \text{st}(p[>1]) \cap \text{sp}(\text{特別の権威ある地位の人})$ .
- (10) 賛意(賛否)を表明する：賛意表明 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{賛意表明}) = \text{arrog}(\text{dgr}[0]) \cap \text{form}(\text{dgr}[2]) \cap \text{st}(p[n>1])$ .
- (11) 公布する：公布 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{公布}) = \downarrow \cap \text{form}(\text{dgr}[n>2]) \cap \text{st}(p[n>1]) \cap \text{sp}(\text{特別の権威ある地位の人})$ .
- (12) 勅令をだす：勅令発布 $\subset$ 発布,  $\mu(\text{勅令発布}) = \downarrow \cap \text{form}(\text{dgr}[3]) \cap$

$st(p[4]) \cap sp(\text{天皇})$ .

- (13) 授ける：授け $\subset$ 授与,  $\mu(\text{授け}) = \downarrow \cap form(dgr[n>2]) \cap st(p[4]) \cap sp(\text{特別の権威ある地位の人})$ .
- (14) 裁決する：採決 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{採決}) = \downarrow \cap form(dgr[3]) \cap st(p[4]) \cap sp(\text{議長})$ .
- (15) 無罪を宣告する：無罪宣告 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{無罪宣告}) = \downarrow \cap form(dgr[3]) \cap st(p[4]) \cap sp(\text{裁判官}) \cap means(\text{法})$ .
- (16) 容疑を晴らす：容疑晴らし $\subset$ 無罪宣告,  $\mu(\text{容疑晴らし}) = \downarrow \cap form(dgr[3]) \cap st(p[4]) \cap sp(\text{裁判官}) \cap means(\text{法})$ .
- (17) 遺贈する：遺贈 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{遺贈}) = \downarrow \cap form(dgr[3]) \cap st(p[4]) \cap means(\text{遺言})$ .
- (18) 洗礼を施す・洗礼名を付ける：洗礼 $\subset$ 宣言,  $\mu(\text{洗礼}) = \downarrow \cap form(dgr[3]) \cap st(p[4]) \cap sp(\text{牧師})$ .

### 5.5. 感情表現の発語内目的

- (1) 賛美する：賛美 $\subset$ 誉めそやし,  $\mu(\text{賛美}) = form(dgr[2]) \cap st(p[n>1]) \cap sati(dgr[3]) \cap rspt(dgr[3]) \cap arrog(dgr[-3])$ .
- (2) 称賛する：賞賛 $\subset$ 誉め称え,  $\mu(\text{賞賛}) = form(dgr[2]) \cap st(p[n>1]) \cap sati(dgr[n>2]) \cap rspt(dgr[2])$ .
- (3) 喝采する：喝采 $\subset$ 称賛,  $\mu(\text{喝采}) = form(dgr[2]) \cap st(p[n>1]) \cap sati(dgr[n>2]) \cap rspt(dgr[2]) \cup means(\text{拍手})$ .
- (4) 大喝采する：大喝采 $\subset$ 喝采,  $\mu(\text{大喝采}) = form(dgr[2]) \cap st(p[n>1]) \cap sati(dgr[3]) \cap means(\text{拍手}) \cup means(\text{声})$ .
- (5) 咎める：咎め $\subset$ 強い不満の表明,  $\mu(\text{咎め}) = form(dgr[n>1]) \cap st(p[n>1]) \cap sati(dgr[-3]) \cap rspt(dgr[n<-1]) \cap arrog(dgr[n>2])$ .
- (6) 声援する：声援 $\subset$ 気持ちの表明,  $\mu(\text{声援}) = form(dgr[n<1]) \cap st(p[n>0]) \cap sati(dgr[n>1]) \cap means(\text{拍手}) \cup means(\text{声})$ .

## 6. ま と め

本稿では、発語内論理の枠組みの中で、個々の発話行為命名動詞が命名する発語内効力の構成要素の一つである達成の様式を、その下位構成要素であるメタ言語の形式化を試みることにより、命名動詞辞書記述の標準化への試案を提示した。具体的には、それぞれの命名動詞の達成の様式の言語化の実例の観察を基にメタ言語を抽出し、それ等のうち相対的に形式化が可能なメタ言語に絞り形式化を行った。その際、個々の発語内行為の達成の様式の値は、それらのメタ言語の値のブール積・ブール和により得られるものであることと、それらのメタ言語は尺度に基づく相対的値の連鎖であり、個々の値は基準値に対してアーベル関数的加法により再帰的に得られるものであることを規定しておいた。

## 参 考 書 目

Austin, J.L.

1962. *How to do Things with Words*, Oxford University Press.

Coulthard, Malcolm

1977. *An Introduction to Discourse Analysis*, Longman.

Dowty, David R.

1979. *Word Meaning and Montague Grammar*, D. Reidel.

Grice, H. P.

1967. "Logic and Conversation," mimeo. (also in Davis, S(ed.), *Pragmatics*(1991), 305-315, Oxford University Press.

Kittredge, R. And Lehrberger, J.

1982. *Sublanguage: Studies of Language in Restricted Semantic Domains*, Walter de Gruyter.

Kronfeld, Amichai

1993. "Meaning and Speech Acts by Daniel Vanderveken" (Book Review), in *Computational Linguistics*, Vol. 19, no. 2.

Kubo, Susumu



- 1981「語彙の意味論再訪：修正拡大モンタギュー文法における語彙の意味論研究」、『言語文化研究 創刊号』, 松山商科大学商経研究会。
- 1986「メタ言語による機械翻訳用二言語併用辞書の作成」, 『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—7』, 情報処理振興事業協会。
1993. “Speech Act Affixes and Illocutionary Force Understanding”, in *Language, Information and Computation*, Thaeaksa, Seoul, Korea.
- In preparation. *A Program toward the Cognitive Theory of Speech Acts*.
- 久保, et al. (久保進責任編集, 西山文夫, 渡辺扶美枝, 渡辺良彦共訳)
- 1997『意味と発話行為』(Vanderveken, D. *Meaning and Speech Acts* Volume 1, Cambridge の翻訳), ひつじ書房。
- Lepore, E & Van Gulick, R.
1991. *John Searle and His Critics*, Blackwell. Searle, John
1969. *Speech Acts : an essay in the Philosophy of Language*, Cambridge.
- mimeo. “The Philosophy of Language : Some Basic Principles,” (First Draft).
1983. *Intentionality*, Cambridge University Press.
- Searle, John and Vanderveken, Daniel.
1985. *Foundations of Illocutionary Logic*, Cambridge University Press.
- Searle et al.
1980. *Speech Act Theory and Pragmatics*, D. Reidel.
- Vanderveken, Daniel
1980. “Illocutionary Logic and Self-Deafeating Speech Acts,” in J. Searle, F. Kiefer & M. Bierwisch (eds.) *Speech Act Theory and Pragmatics*, Reidel.
1985. Non Literal Speech Acts : An Essay on the Foundation of Formal Pragmatics (Part I),
1988. *Les Actes De Discours*, Philosophi et Langage (ed. Pierre Mardaga).
- 1990a. “Non-literal Speech Acts and Conversational Maxims,” in E. Lepore & R. Van Gulik (eds.) *John R. Searle and his Critics*, Blackwell.
- 1990-91. *Meaning and Speech Acts*, vols. 1 & 2, Cambridge University Press.
- 1994 *Principles of Speech Act Theory*, University of Quebec, Montreal.
- Zadeh, Lofti A.
- 1993 ‘Fuzzy Logic : Issues, Contentions and Perspectives,’ a talk given in an international Conference, *Language, Reason and Thought* at Cerisi, France.

本稿は、平成7年度松山大学特別研究助成による研究成果の一部である。